



名古屋いのちの電話

1991年度 事業報告



写真 文 珠 幹 夫

生きているってフシギだな

やなせたかし

生きているってフシギだな

キリンもカバもライオンも

ミミズもカニもミツバチも

みんなみんな生きている

丸い地球にマガリして

ぐるぐるまわって生きている

みんなトモダチ

みんな仲間

オレたちは

生きているものどうしだネ

生きているってフシギだな

おいらもおめえもみなさんも

キサマもキミもヤマイモも

みんなみんな生きている

青い地球にしがみつき

ためいきつきつき生きている

みんなトモダチ

みんな仲間

オレたちは

生きているものどうしだネ

詩集愛する歌第二集より

最高の笑顔

祖父江 文 宏

50人の、育つべき家庭を持たない小さい人たちが暮らす暁学園の深夜は、捨てきれない親への思いを自分の体温で暖めながら眠る、50通りの見果てぬ夢の夜です。

小さい人たちが暖める親への思いは、たとえそれが自分を捨て、生き死にの境をさまよわせた加害者であろうと、美しく飾られ、やさしく抱きとめてくれる親として思い描くことです。

重なる夢のなかで、思い描く親は現実を離れ、現実の生きている親を離れることで、思い描く小さい人からも現実の時間と人生を見失わせます。

やさしさへの、癒されることのない飢えだけが増幅され育ちます。

そのなかで見失われるのは、ちいさい人自身の実人生なのです。

親が子供を捨てたことは、いまでも捨てつづけていることなのです。

初めてのときには、いつまでも血を流しつづける記憶としての傷を刻み、それからの時間を、本当の自分を見失わせることで捨てつづけるのです。

いつもならば、その夜の夜勤の職員に後を託して家へ帰るのですが、それができなかったのは、朝から始めたしのおさんとの話し合いの結論がないまま、しのおさんの身に何事かが起きそうな予感がしていたからでした。私の予感は、いつも小さいひとからの、一緒に居てほしいという無言の呼び掛けなのです。

「わたし、死ぬなかった。死ぬよりないって思った。死ぬと思ったのに。そう思ったから切ったのに」しのおさんは、長い沈黙の後で突然せきをきったように泣きだしました。

しのおさんの手首には、職員が泣きながら手当をした真っ白な包帯が巻かれていました。

「痛かったのと違う。手が動かなかったの。頭で考えていたのは死ぬことなのに、頭で考えていることがちっぽけなことで、山みたいに大きなわ

たしがついて、頭で考えていることなんか、まるで歯がたたないの。死ぬ勇気がなかったのと違う」しのおさんは目からあふれ、ほほを伝って流れ落ちる涙を拭こうともせず、泣きつづけました。

「園長すけが言ったように、わたしは、汚してきた。これまでの自分とこれからの自分を。お金を貰って、帰って来る電車のなかでいつも、なにが目的で男の人とそうなったのかが分からなくなるの。今度こそやさしいひとだろうと思って、そのために用意して出掛けて行ったのに。学園の先生たちにつく嘘や言い訳を考えながら、また、違っていたと思うの。やってしまったことが、本当にわたしがやりたいことと違って思っている。夢を見ているみたいだった。いつまでたっても覚めない夢を見ているみたいだったの。いつも、誰か大切なひとを裏切っているって思うの。その大切なひとが、山みたいな、死なせなかったわたしだった」

しのおさんは、彼女が言う、汚れてしまったこれまでとこれからを、無抵抗に流しつづける涙で洗い流しながら、山のように大きな自分を掘り出そうとしているようでした。

それ意外の方法がなく、ただ、涙を流す以外にない、欲望だけで生きてしまったしのおさんの絶望の深さに、私は、本当の自分に巡り会っているしのおさんを見ていました。

死のうとしたしのおさんを死なせなかった、山のように大きな自分とは、本当の自分、欲望を超え、よりよく生きていこうとする大きな意志。いのちだったのではないか。

3日後、高等学校を中退したしのおさんは、自ら選んだ職場に就職していきました。

私を知る限り、最高の笑顔を残して。

(養護施設 暁学園施設長・作家)

ひょんなご縁で「名古屋いのちの電話」の開設以来相談活動に参加させていただいているが、実を申せば、私は大の電話嫌いである。その理由を考えるに、かける場合には相手の都合が分からないということとかかってくる場合にはこちらの事情におかまいなく自室にまで飛び込んでくるからだと考えられる。だから私の電話は数分間の事務的なものか、今頃なにをしているか一日のスケジュールが分かっている相手かであり、そうでない人に

電話をしなければいけない場合には3日も4日もためらってしまうから、これはもう立派な電話恐怖症かもしれない。だから、私ならば自殺するときは遺書にするだろうし、悩みならば信頼する友達の顔を見ながら語るだろう。従って、私には電話相談はまことに不思議な活動であるし、利用者もまた不思議な人たちに思われる。

しかし、もし私がひとりで異国にいるとしたらばどうだろう。親しい友達も家族もない外国の町中で、たまたま孤独で猛烈に誰かと話したいとしたら、回りに知り合いがいないとしたら、なにか問題を抱えていたら、そういう時「いのちの電話」のステッカーを目にしたら、電話嫌いの私でも、まちがいなく受話器に手が伸びることだろう。ここにかければ話が聞いてもらえる、問題が解決するかもしれないという期待をしながら、始めはおずおずとしながらでも電話をかけるだろう。

アメリカのベルによって1876年、電話は実用化されたと言われているが、21世紀を目前にしても、地球上の77パーセントが発展途上にあるといわれているから電話の普及していない地域は多い。しかし、人間にとって、電話は便利な伝達の手段のひとつであるから、電話線によるコミュニケーションが発達すればするほど生の会話が減っていくだろう。子供たちも直に話すのではなく、電話で延々と話す時代である。この現象はどうい

うことを意味しているのだろうか。

私には電話の普及率、利用率の増加と、人々の孤独や傷付きやすさ、その裏腹にあるもろい尊大さといった現代人の心性とは深い関連があるように思われてならない。電話はこういった現代人の心性にぴったりとしたコミュニケーション手段ではないだろうか。ましてや「いのちの電話」のように、利用者の話しを共感的に受け止めるように訓練された相談員ならば、やりこめられたり、傷

付けられたりすることなく安心して話ができることだろう。都会化や核家族化が進んだ東京砂漠や名古屋砂漠のなかで、ぼつんと独りで佇んでいる異邦人が受話器の向こう側にいるという気がしてならない。

われわれは、環境問題や核の問題よりも、隣人に悪口を言われるほうが、はるかに辛い体験となる。超私的なことに思い煩う生き物らしい。こういう点で、最近、私は、電話相談の世界はある種の演歌の世界に似ているという気がしてならない。極プライベートなことがテーマとなり耐えたり、泣いたり、恨んだり、哀しんだり、諦めたり、諦めきれなかったりする世界。進歩や発展や成長といった側面が感じられにくい世界。相談員を途中で降りた人はおそらく演歌アレルギー体質の人たちであつたらうとひそかに推理している。最近、スーパービジョンをしていて、私のなかに湧き起こる最大の問題は、

繰り返し延々と電話をされるこれらの利用者たちに、電話相談はどのように対応でき、また、対応したらよいのかということである。匿名で顔を合わせることもなく、居ながらにして会話が可能である電話相談には、今後さらに人格障害者の電話が増えるのではないかと予想するからである。

(名大学生相談室カウンセラー)

電話相談活動を通して 考えること考えたこと

長尾 ひろの



1991年度 事業報告

名古屋いのちの電話の地味な電話相談活動を理解し、覚えてご援助下さいます賛助会員、寄付者の皆様から感謝申し上げ相談員の方々のたゆまない奉仕の働きに敬意をはらいつつ、1991年度の事業報告をさせていただきます。

1991年度の主な集会等

理事会	3回	財務・運営合同委員会	6回
評議員会	3回	愛知電話相談研究会	7回
運営委員会	12回	チャリティー・クリスマス・	
財務委員会	6回	オルガン・コンサート	1回
訓練委員会	11回	理事長朝日社会福祉賞受賞祝い会	1回
委員長会	5回	公衆電話ボックス・ステッカーはり運動	1回

理事会報告

1991年度は法人認可後の第2年目にあたり、本業の電話相談活動は着実な経過をたどり、又第6期相談員養成講座も開講され、相談事業の充実がはかられました。更に前年度第15回自殺予防シンポジウム開催後、他の相談機関の方々と共に学ぶ(仮称)愛知電話相談研究会が結実し、継続して開催されております。更に来年度'92年10月には名古屋で全国電話相談研究集会を開催する源動力となっています。

電話相談の総受信件数は年間で11,728件、開局以来の総件数は84,508件('92年3月31日現在)に達し少々落着きを見せてまいりました。賛助会員募集運動は6月より3か月間にわたりましたがその結果106名の方が期間中に入会しご支援の集いに加わって下さいました。又'91年度も100社を越す法人の賛助と、賛助会員寄付者の方々のあたたかなご支援により500万円の基金組入れができました。

ボランティア相談員の実働人数は150に及ぶようになりました。懸命に受話器を握り、悩む人々の悩みを自分のものとして共に悩む姿は誠に尊く感謝にたえません。

開局以来7年の歳月の流れと共に、理事或は評議員として「いのちの電話」の拠点を提供して下さいましたピーター・チョーク神父も香港に転任され、又、川原啓美氏も辞任され誠に淋しくなりましたが新鋭の高山貞美神父(みこころセンター新館長)と向田正俊氏(名古屋共栄証券社長)を迎えることになりました。

なお、新年度より常務理事に木本精之助氏をお迎えし、事業一層の充実強化に加わっていただきます。1995年には開局十周年を迎えます。一日も早い24時間体制を実現し、相談態勢の充実をはかりたいと存じます。何卒一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会

理事長	相馬 信夫
理事	笠原 嘉、木本 精之助、豊田 壽子、長岡 利貞 西沢 信正、水谷 巍
監事	内河 恵一、小山 勇
評議員	笠原 嘉、川原 恵、川原啓美、木本精之助、相馬信夫、豊田壽子、中島 緑、 中堀仁四郎、長岡利貞、西沢信正、舟橋秀之、藤岡ひろみ、水谷 巍 ピーター・チョーク、渡辺宜親

運営委員会報告

いのちの電話の普及宣伝と組織財政基盤の強化は基本的課題である。本年度はこの課題を最重点に取り組むべく財務、運営両委員会合同で年度始め早に5月7日会合をもった。拡大強化は日常課題とは違うものやはり月間を設けて賛助会員、法人寄付に集中的に取り組むことを確認した。先ず会員の紹介者及び相談事業関係の名簿をもとに500余に手紙を出し、また名古屋商工会議所をはじめ各機関人脈をたどって勧誘を行った。その結果106名(A29, B29, C38) 寄付者10名の新加入を得ることができた。

● チャリティーコンサート

いのちの電話の宣伝と財政活動として毎年重点課題として取り組んできたが、この数年思うような成果を上げてないのが現状であった。独自の興業はむずかしいということである。今年は8月10日名古屋テレビ主催の東別院星空コンサートに協賛団体として名を連ねることができ、収益ではあまり成果はなかったが、宣伝の効果はあげることができた。

南山教会での酒井多賀志クリスマスコンサートは教会及び奏者の奉仕によるもので多額の献金をうけることができた。

縄文土器制作者からの作品寄贈があり、一部バザーで販売したが、こうしたチャリティー販売も将来の課題であろう。

● フォーラムは6月29日に開かれた。内容は年々新しくなっているが、今年は西沢信正さんの講演会という形で行われた。

● ステッカー貼りを年末にかけて展開した。NTT側の理解もあり、今年は名古屋東南部に貼ることとした。天白、瑞穂、昭和の電話ボックスに約500枚貼ることができた。

各分野の活動も分化し、また事務局体制も確立した。運営委員会は今後多くの方々に加わって頂き運動の全容の理解を深めて頂きたいと考えている。

(運営委員長 水谷 巍)

訓練委員会報告

訓練委員会は10名で構成されています。全員がボランティアとしてこの仕事に携わっています。

まず第1の仕事は、相談員の養成であります。相談員は決して専門のカウンセラーではありません。

しかし、電話相談という仕事は人のいのちと尊厳にかかわるものであり、それに携わる者はたとえボランティアであっても相当の専門性を要求されるものです。いのちの電話の相談員として活動を続けていく為には相談技術と人間性を尊重しようという精神性において自らを鍛えるという事が必要になるわけです。訓練委員会はこの様な要請に応え、一年間にわたって毎週約3時間の訓練プログラムを立案し、その実施に当たっています。1991年度は36名の方が訓練に参加され、1992年4月21日現在25名の方が認定を受けられました。このために、参加者自身はもとより、それを支えられた家族の方々の御苦労があったと思います。また講座トレーニングのために、延べ34名の名古屋地域に住んでおられる法律、心理臨床、人間関係の各界の専門職の方々のご協力があったことを感謝しています。

訓練委員会の仕事には、相談員の一人一人が、相談員としての資質を維持し、さらに向上される為に、毎年一度の専門家に依るスーパービジョンを受けられる様に、アレンジを行なっています。このため名古屋近辺の29名の専門のカウンセラーがご協力くださっています。

同じ目的で、「継続訓練」が行なわれています。相談員は必ずいずれかの継続訓練グループ(10名前後)に入って、一年間を通して毎月一回の学びの機会をもつことにしています。これは相談員のボランティアグループの「継続訓練を考える会」メンバーによってアレンジされていますが、その講師の紹介等に関しては訓練委員会が相談にのっています。昨年度は次の様なテーマが取上げられました。「組織の行動科学」「教え、学び、生きる」「いこいの広場」「不安と性と精神障害をめぐって」「ケースワーク雑談会」「聞く、話す、考えることについて」「トランザクショナル・アナリシスを学んで自己理解を深める」「生と死を考える」「電話相談の実際」「仏教的なもの見方、考え方」「いのちの電話とは」「カウンセリングの基礎」「事例研究」など。このためにも講師、指導者として専門家の方々の協力をえています。

訓練委員会では毎月一回の定例委員会をもっていますが、その他今年は養成講座参加希望者の面接、緊急連絡員研修、スーパーバイザーの会、登録更新のための研修会、相談員認定のための委員会等も行いました。また小冊子「1990年・いのちの電話と自殺の相談」を発行しました。

(訓練委員長 中堀仁四郎)

財務委員会報告

「いのちの電話」運動の継続的な発展を願い、社会福祉法人化を実現して、財政基盤の安定をはかることが計画され、目標3000万円の基金募金を実施されたのは1988年～1989年のことでありました。そして1990年度には関係者の努力と愛知県当局の理解により1985年開局以来の悲願であった社会福祉法人の認可を得ることが出来ました。

新法人の第1年度1990年度は開局5周年にも当り法人設立記念式、感謝会の他、日本自殺予防シンポジウムの当地開催をポストする等、いくつかのイベントがいのちの電話の存在と奉仕の實際を社会に強く印象づけることになり、財政的にも開局以来はじめて黒字決算を報告できたことでありました。

しかし、新誕生のこの法人は、認可に際して安定度の高い財務運営を強く要求をれた。10年間に基金を10億円にまで増額することを設立後の大きな課題とすることになりました。

当然のことですが1991年度の財務委員会の主たる話題は、この基金積立を含めた。今後の長期的な運営を如何に考えるかという点にありました。

1991年度収支計算書

借 方 (支出の部)		貸 方 (収入の部)	
科 目	1991年度決算額	科 目	1991年度決算額
事業費支出	(12,835,174)	事業収入	(16,912,293)
701 教育・訓練費	1,992,079	501 助成金	400,000
702 広報費	378,151	502 共同募金配分金	1,400,000
703 調査・研究費	57,200	511 会費(法人)	4,590,000
704 渉外費	37,524	512 会費(個人)	420,500
705 特別事業費	0	513 賛助会費(A)	1,760,000
711 職員給与	4,274,000	514 賛助会費(B)	910,000
712 貸与	1,042,000	515 賛助会費(C)	645,000
721 賃金	0	516 協力会費	0
722 退職金	0	517 相談員の会費	120,000
723 法定福利費	17,318	521 寄付金(個人)	1,151,521
724 福利厚生費	12,264	522 寄付金(団体)	1,614,812
725 退職引当金	0	523 年末募金	1,264,000
731 旅費・交通費	703,380	531 後援会(個人)	0
732 通信費	657,540	532 後援会(団体)	0
733 電話料	226,175	541 特別事業収入	783,460
734 印刷費	587,092	551 講座受講料	1,753,000
735 事務用品費	108,258	58.1 基金募金収入	100,000
736 会議費	2,500	事業外収入	(1,525,662)
737 郵便振替負担料	48,690	911 繰入金	0
738 支払手数料	4,372	912 引当金戻入	0
741 連盟負担金	280,000	913 設備資金借入収入	0
742 諸会費	10,031	914 積立金戻入	0
743 共益費	720,000	921 受取利息	1,367,482
744 水道光熱費	480,000	922 雑収入	158,180
745 消耗品費	234,590		
746 備品費	588,780		
747 宮籍費	115,600		
751 租税公課	80,555		
752 拠出金	0		
761 保険料	26,814		
771 雑費	150,261		
事業外支出	(200,000)		
821 元利償還金	0		
822 支払利息	0		
831 繰入金支出	0		
841 雑支出	0		
851 固定資産取得額	200,000		
861 積立金繰入	0		
871 基金繰入	5,001,896		
小 計	18,037,070	小 計	18,437,955
前期繰越剰余金	2,174,046	前期繰越剰余金	2,174,046
当期剰余金	400,885		
合 計	20,612,001	合 計	20,612,001

助成金は中日新聞社会事業団より

基金募金を実施した1988年以来、会社法人よりの賛助費など寄付は、年々100社を前後するようになったので、この分野の努力は更に継続すると共に、当年度から、個人の賛助会費の増強を計画的に進めることにいたしました。運営財務委員による合同委員会を中心に進められた賛助会員増強は最終的に106名。新会員に加ることが出来ました。又、この年度、会社法人による賛助或に寄付は約100社総額477万円を上廻るものになりました。

当年度の会計報告は別記の通りであります。懸案の基金繰入は500万円を上廻りました。前年度に引きつづき、ほゞ予定通り基金積立を実施できましたことは、前年の好成績が決して特別のものではなく、この活動の地道な奉仕の蓄積が、安定した評価を受けはじめたものと深く感謝し、報告と致します。

(財務委員長 木本 精之助)

1992年度予算

借 方 (支出の部)		貸 方 (収入の部)	
科 目	1992年度予算額	科 目	1992年度予算額
事業費支出		事業収入	
701 教育・訓練費	3,200,000	501 助成金	600,000
702 広報費	550,000	502 共同募金配分金	500,000
703 調査・研究費	100,000	511 会費(法人)	6,500,000
704 渉外費	50,000	512 会費(個人)	900,000
705 特別事業費	1,500,000	513 賛助会費(A)	3,000,000
711 職員給与	6,797,000	514 賛助会費(B)	1,500,000
712 貸与	1,983,000	515 賛助会費(C)	900,000
721 貸金	0	517 相談員の会費	150,000
722 退職金	0	521 寄付金(個人)	2,000,000
723 法定福利費	50,000	522 寄付金(団体)	2,800,000
724 福利厚生費	30,000	523 年末募金	1,200,000
725 退職引当金	400,000	531 後援会(個人)	0
731 旅費・交通費	870,000	532 後援会(団体)	0
732 通信費	790,000	541 特別事業収入	700,000
733 電話料	240,000	551 講座受講料	1,640,000
734 印刷費	500,000	581 基金募金収入	100,000
735 事務用品費	120,000	事業外収入	
736 会議費	15,000	911 繰入金	0
737 郵便振替負担料	60,000	912 引当金戻入	0
738 支払手数料	5,000	913 設備資金借入収入	0
741 連盟負担金	270,000	914 積立金戻入	0
742 諸会費	20,000	921 受取利息	1,200,000
743 共益費	720,000	922 雑収入	100,000
744 水道光熱費	480,000		
745 消耗品費	100,000		
746 備品費	50,000		
747 宮繕費	100,000		
751 租税公課	70,000		
752 拠出金	100,000		
761 保険料	70,000		
771 雑費	50,000		
事業外支出			
821 元利償還金	0		
822 支払利息	0		
831 繰入金支出	0		
841 雑支出	0		
851 固定資産取得額	0		
861 積立金繰入	0		
871 基金繰入	4,500,000		
小 計	23,790,000	小 計	23,790,000
881 当期剰余金 (翌年度繰越金)	0	437 前期繰越剰余金 (前年度繰越金)	0
合 計	23,790,000	合 計	23,790,000

助成金は中日新聞社会事業団より

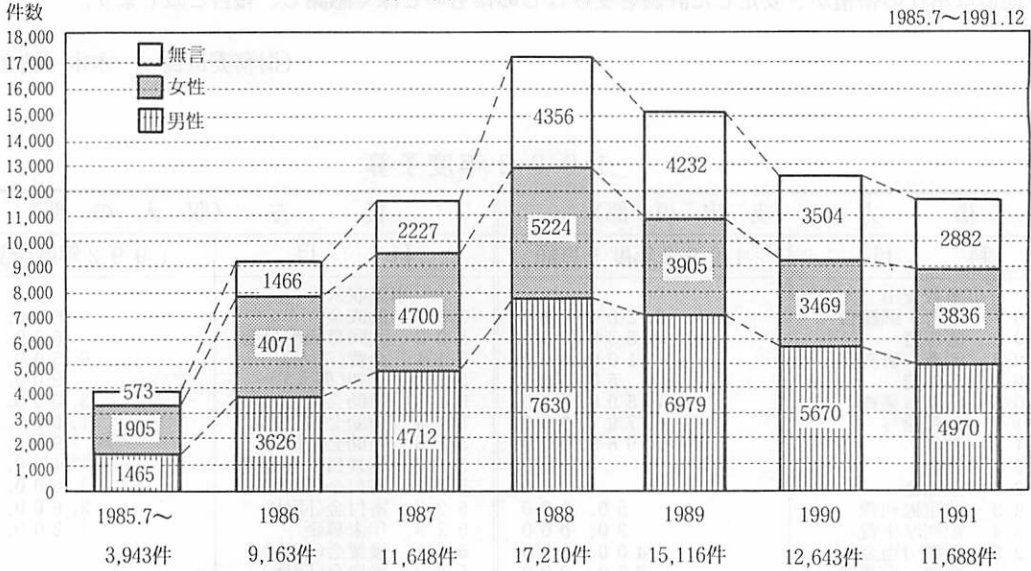
● グラフで見る名古屋いのちの電話 ●

○ 6年間の受信件数の推移（1985年7月～1991年12月）

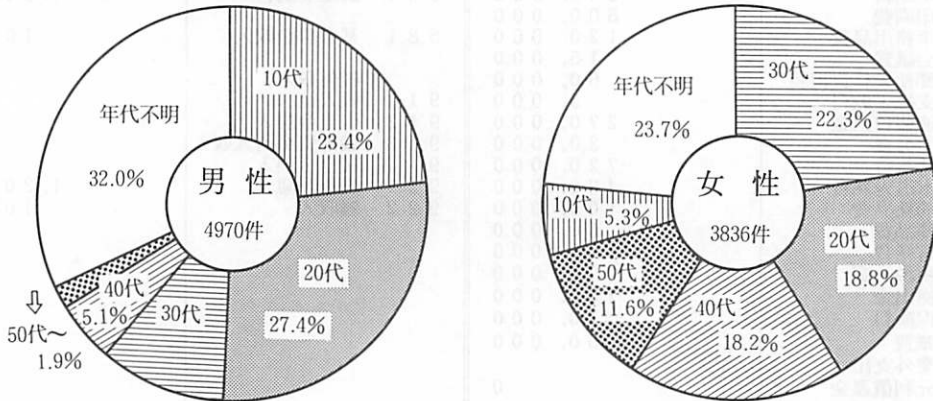
総受信数は81,411件で、相談員との会話がなかった無言電話19,240件をのぞくと相談電話の受信件数は62,171件となります。（1991年12月31日現在）

1991年は1日あたり24件の相談電話を受信していることになります。

受信件数の推移



○年代別・男女別の相談件数



点滴

新学期、今年も4月から新しいお友達が大量入園してきました。朝母親との別れが辛くて泣き叫んだり、門から脱走(?)したりしていた小さい子どもたちもようやく保育園の生活に慣れてきて、母親と「バイバイ」が出来るようになりました。

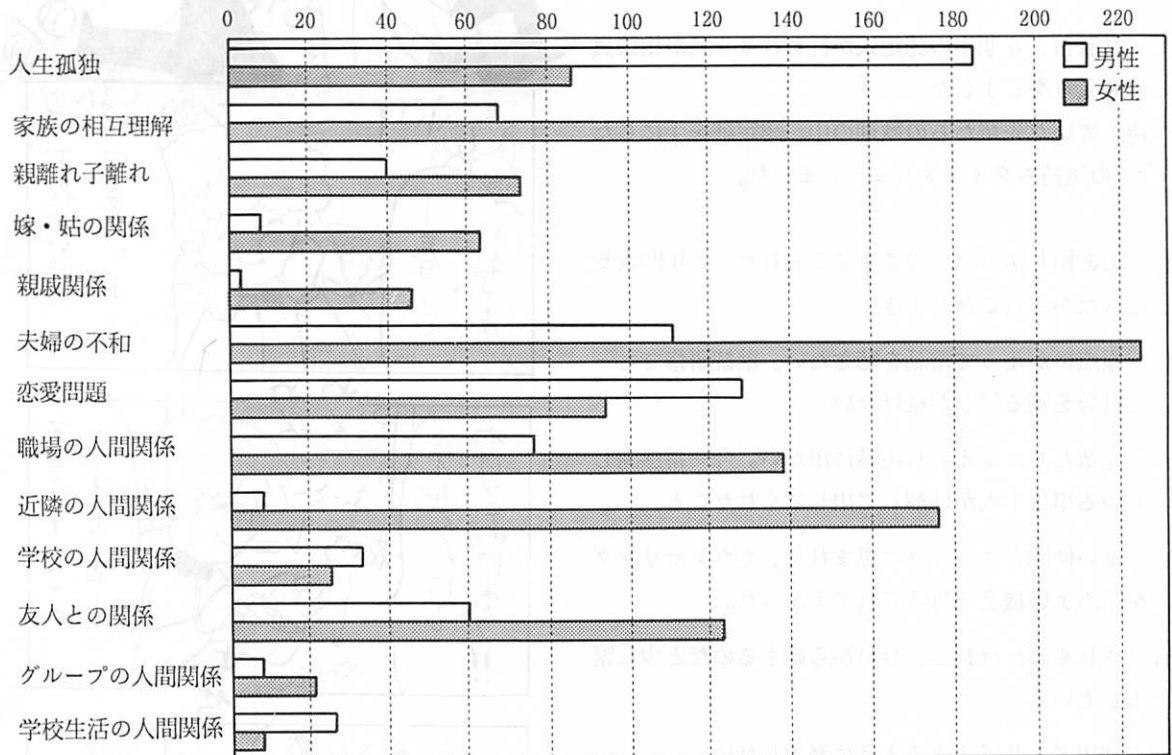
そんな子どもの中にブラジルから来ている日系三世のカミラちゃんがあります。4月に両親と日本へ来たばかり。両親は片言の日本語が喋れますが、カミラは全然日本語が分かりません。両親は近くの工場に働きに出ているために、3才のカミラはいきなり保育園に預けられたのです。

朝泣きながら両親と別れたカミラは、抱かれた担任の保育士に一生懸命何かお話をしています。保育士は只うなずきだけ。

○ 複雑な人間関係・孤独

相談内容の主なものに「複雑な人間関係や孤独」をあげることができます。相談内容の中からそれらの項目を拾い出してみました。13の関係項目の相談件数は男性が754件で男性全体の15.1%、女性が1284件で女性全体の33.5%、全体では2038件で、23.1%の割合となります。これは利用者の訴えの1/4で、多くの人が複雑な人間関係に悩んだり、人間関係がうまくいかず孤独を強いられているものと考えられます。

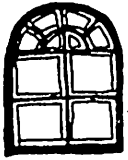
主な人間関係



警察庁から発表された1991年の自殺者は、『21,084人』でした。この数字は昨年より262人(-1.2%)減ったものの、男性の自殺者は13,242人で昨年より1.1%増加しました。また、女性の自殺者は7,842人で昨年より-5.1%減少しました。年代別では、65才以上が全体の28%で5,829人、50才代が全体の21%で4,423人、40才代が19%で3,954人と続きます。職業別では自営業者と管理職が昨年にくらべて7.6%増えています。動機別では、病苦・アルコール依存症・精神障害・家庭問題・経済生活問題・勤務問題の順となっており、中でも男性の経済生活問題を理由とした自殺が大幅に増加しています。

カミラが話しているのは「ポルトガル語」、うなずいて返事をしたりカミラに話しかけている保母は「日本語」。初日はなんとか過ぎました。二日目同じような時間が過ぎて行きました。昼頃「園長、分かりません」、保母が泣きながら「どうしていい分かりません。カミラがなにを言っているのか、さっぱり分かりません」とパニック。

夕方迎えにきた母親に昼間カミラと保母との会話を聞いてもらいながらの話。カミラが泣きながら保母に話しかけている時、彼女は一生懸命カミラに「もうすぐお母さんがお迎えにくるよ。カミラは寂しいんだよね。大変なんだよね」などと話しかけているのを母親が聞いて二人の間に言葉による会話は成立していないが、心が通じあっていたことがわかった。最後に、園長「ブラジルでは、ポルトガル語だものね」、母親「私たちはブラジル語で話します」とのこと。(N. U)



窓

4月21日、6期生の認定式が行われ25名が相談員の仲間入りをしました。

待っていた先輩たちの歓迎の中、認定証を手にした「今」の気持ちをインタビューしました。

- ☆ ああ嬉しかった。ここまでこられた。一年間大変だったから喜びが大きい。
- ☆ 原点にかえて電話を聴きたい。継続研修でもっと自分を知る学びが続けたい。
- ☆ 先輩たちに支えられ電話に出たい。今一番感謝している事は主人が理解して出してくれたこと。
- ☆ よい仲間とスタッフに恵まれた。カウンセリングを学ぶよい機会を与えられてよかった。
- ☆ やれやれだけれど、今日から始まるのだと少し緊張している。
- ☆ 利用者と共感出来るように努力したい。
- ☆ 勉強しながら自分がどんどんかわっていることに気付いた。
- ☆ 今認定を受け、やる気一杯です。
- ☆ これからが大変だ、と感じている。
- ☆ 人を理解することのむづかしさを知らされた。
- ☆ 会社でもしっかりやってきたつもりが、勉強してみても邪魔になっているように思う。話すことと相手を理解することのむづかしさが身にしみてきた。
- ☆ 実際と研修の電話は違う、利用者が「きいてもらえた」という実感をもてるような相談員になりたい。
- ☆ 電話を受ける技術より心が大切だと知った、相手を知るために聴くことに徹したい。



NTT公衆電話ボックスPR作戦

第2回目となりますステッカー貼り付け運動を、かねて許可願いを致して参りましたが、昨11月1日付けでNTT東海支社より許可を頂き、今回は千種、天白、緑、の3支店、管内、昭和、瑞穂、天白、緑の各区と日進町の一部（行政の区分けと異なる。）の電話ボックスに、ボランティア一同、手分けをしてステッカーの張り付けを致しました。（写真）この運動は去る3月末日をもって一応の目標達成と致しました（一部心残りは有りますが。）ボックスの位置を指示されたのは感謝の窮みであります、指示が無く、所在地の表をたよりにボックスを見つけるのは、大変な苦勞でありました。が、お困りの方々の一助となれば、労とも思わずです。

対象、546基のボックスの87%に貼ることが出来ました。



名古屋いのちの電話日誌

- 1月6~10日 新年ご挨拶
- 13日 訓練委員会
- 17日 第7期養成講座後援願い
- 20日 運営委員会
- 23日 財務委員会
- 24日 中日新聞社会事業団年末助け合い募金受与式
- 29日 朝日社会福祉賞受賞式
連盟理事長 秋山聡平氏
本協会理事長 相馬信夫氏
- 2月 1日 第7期養成講座要項配布
- 17日 理事会、評議会、運営委員会
- 22日 グラバー俊子先生講演会、親睦会
- 24日 訓練委員会
- 26日 スーパーバイザー打合せ、懇親会
- 27日 名古屋名城ライオンズクラブ例会
スピーチ、長岡利貞氏
- 3月 7日 相馬理事長朝日社会福祉賞受賞祝会
- 14日、18日 登録更新研究会
- 16日 訓練委員会、運営委員会
- 4月 6日 訓練委員会
- 9日 第6期相談員認定委員会
- 13日 運営委員会
- 17日 愛知県共同募金、配分決定書受与式
- 18日 第7期相談員養成講座申込者面接
- 21日 第6期相談員認定式
- 23日 財務委員会
- 27日 (仮稱)愛知電話相談研究会
- 28日 運営、財務合同委員
- 5月 9日 第7期相談員養成講座オリエンテーション
- 11日 訓練委員会
- 13日 (仮稱)愛知電話相談研究会
- 18日 理事会、評議会、運営委員会

ご寄付下さる皆様へ

当協会への寄付金については所得税や法人税の優遇措置が受けられます。

★ 個人の場合

確定申告によって、所得税法、(第78条1項・2項3号)の規定により寄付金控除が受けられます。

- ・寄付金額又は
- ・所得額×0.25

— (1万円) = 寄付金控除額

なお、相続の場合も申告期限前の寄付金は、控除されます。

★ 法人の場合

確定申告によって寄付された金額を法人税法(第37条3項3号)の規定により、一般損金算入の枠の他にこれと同額枠の損金算入枠が認められます。

★ 本協会の発行する領収書は大切に保管して下さい。

お問い合わせは...

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会
事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会

1992. 初夏

名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257号

1991年6月1日発行

事務局 ☎052-971-5181

郵便振替口座 名古屋 1-53758

発行人 相馬 信夫

相談電話 ☎052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会